

1 PLAN(目的・概要)

その他経常業務

政策名	物流・産業	25年度事業・施策評価結果		責任者	港営部 港湾管理事務所長	
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化	成果	コスト			
事務事業名	在来施設(上屋・荷さばき地)の管理・運営			連絡先	052-398-0503	
目的	対象(誰・何を)	上屋及び荷さばき地			事業期間	昭和36年度～継続
	意図(どういう状態にしたいか)	使用者が効率的に使用できるようにします。				
概要	施設の使用状況を適切に管理し、無許可使用や施設への損傷の有無に注意を払い、損傷等が生じた場合には緊急度に応じて補修等の実施に努めます。			根拠法令等	名古屋港湾施設条例	
活動内容	①使用許可申請書の受理、②利用者調整、③現場確認を実施し、施設の使用状況の確認及び損傷箇所の発見、④港湾管理情報システムへの使用実績の入力及び⑤利用者からの要望又は施設損傷等の不具合等が生じた場合は緊急度に応じた補修を行います。			実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
				関連シート		

2 DO(実施)

コスト	単位	24年度	25年度	26年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	79,474	80,835	144,136	101,482	施設老朽化に伴い補修費が増加
人件費	千円	50,553	45,552	45,807	47,304	
合計	千円	130,027	126,387	189,943	148,786	

3 CHECK(検証)

指標名		24年度	25年度	26年度	中間目標 30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
荷さばき地使用率(%) (単年度管理型)	目標	-	-	100.0	100.0	荷さばき地の使用率 使用料÷有効面積金額	景気動向
	実績	41.3	43.8	48.7			
	事業進捗状況(平成26年度)	目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る			
上屋使用率(%) (単年度管理型)	目標	-	-	100.0	100.0	上屋の使用率 使用料÷有効面積金額	景気動向
	実績	79.1	65.9	83.3			
	事業進捗状況(平成26年度)	目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	使用率は荷さばき地については48.7%、上屋については83.3%となっており、前年度を上回っております。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○					施設の公共性の観点から本組合の関与が必要不可欠です。 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境に適合しています。
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○					
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	○					上屋及び荷さばき地を適切に管理するという事務事業の目的は、国際・国内海上輸送機能の強化という 施策達成に貢献するものです。
	期待どおりの成果が得られているか?	○					
効率性	最小のコストとなっているか?	○					施設の補修費の増加があるものの、最小の人員体制で効率的な管理を行っています。

4 ACTION(取組)

課題	27年度以降の取組
施設の老朽化が進行しており、修繕に加えて大規模改修が必要な状況です。	良好な施設提供のため、上屋の耐震化などの改修に順次取り組んでいきます。